

令和元年度 第2回 淀川区子ども教育会議 議事要旨

日時 令和元年12月4日(水) 19:00～20:40

場所 淀川区役所 5階 区長応接室

出席者 委員：板谷 勉 氏
岡田 崇 氏
佐々木サミュエルス^ス 純子 氏
城野 信一 氏
壽榮松 正顕 氏
出口 和彦 氏
久松 智子 氏
安田 直芽 氏

事務局：	淀川区担当教育次長(区長)	山本 正広
	淀川区教育担当部長(副区長)	中喜多 孝之
	淀川区教育担当課長	榊原 幸一
	淀川区教育担当課長代理	佐多 隆彰
	教育政策課担当係長	岡田 征憲
	教育政策課担当係長	澤田 真理子
	教育政策課担当係長	石田 猛裕
	淀川区中学校長会(十三中学校長)	屋島 豊市
	淀川区小学校長会(木川南小学校長)	久保 敬

傍聴：1名

《会議資料》

- 資料1 特別企画★手作りキッズまくら(体験版)を作ろう!～
- 資料2-1 次年度に向けた検討状況～淀川区 教育支援関係事業にかかる主な変更～
- 資料2-2 スクールカウンセラー事業<H31 淀川区実施体制><R2 淀川区実施体制(案)>
- 資料3 令和元年度 学校協議会委員研修 アンケート結果
- 資料4 子ども見守り放送に関して区に寄せられたご意見
- 資料5 大阪市部活動指針～プレイヤーズファースト～
- 資料6 「淀川区冬休み子ども相談」について
- 資料7 「分権型教育行政」による区内の教育行政に関するアンケート
- 資料8 ほめ写プロジェクト
- 資料9 淀川区子ども教育会議委員名簿
- チラシ 第10回絵本展「ものがたりのちから」
- 参考資料1 令和元年度第2回淀川区教育行政連絡会「小学校の部」議事要旨
- 参考資料2 令和元年度第2回淀川区教育行政連絡会「中学校の部」議事要旨

《次第》

司会：教育担当課長

◎次長(区長)あいさつ

◎議題

- 1 ヨドネルすいみん月間について【公開】
- 2 次年度に向けた検討状況について【公開】
- 3 分権型教育行政にかかる情報提供【公開】
- 4 自己肯定感を高める取組について【公開】
- 5 その他【公開】

山本次長（区長）

こんばんは。区長の山本でございます。本日は淀川区子ども教育会議ということでお集りいただき、ありがとうございます。

ヨドネルに関して以前の子ども教育会議で、子どもたち自身が尊敬できるような人に「睡眠を大切にしていますか」というようなインタビューをすれば睡眠を大切にすきっかけになるのではないかというアイデアをいただいたことがあり、今回セレッソ大阪の協力を得て実現する運びとなったので、ご報告させていただく。後ほどご説明する「ヨドネルすいみん月間」についてもそうだが、保護者や現場の声を聴き、可能な限り実現させていきたいと考えているので、本日も真摯な議論をお願いする。

榊原課長

本日より新たに委員としてご出席いただいている方々もいらっしゃるので、お一人ずつ自己紹介をお願いしたい。

（全出席委員、学校長の順に自己紹介）

議題1 ヨドネルすいみん月間について

議題2 次年度に向けた検討状況について

榊原課長

淀川区では保護者の方々、校長先生方から子どもたちの睡眠が心配という声もあり、平成27年度から子どもたちの睡眠を守る取組としてヨドネルに取組んできた。子ども教育会議や校長先生方との意見交換の場において重点的に取組んでみてはどうかというご意見もいただいたので、今年度から12月に「ヨドネルすいみん月間」を設定し、各学校では「すいみん週間」を設定するなど12月中に重点的に取組むようお願いしている。区役所では、これまで大阪市立大学の水野先生と官学連携により取組を進めてきたが、今年から寝具メーカーの西川株式会社を加え、産官学で連携した取組を進めている。その一環として西川株式会社の協力を得て、「ヨドネルすいみん月間」の特別企画「手作りキッズまくらづくり」体験を実施し、まくらづくりを一つのツールとして睡眠についての考えを啓発していこうと考えている。大変好評をいただいております、定員25名の2回で50名のところ、申込数が大幅に超え、現在116名の応募があるため抽選を行う。

次に、次年度に向けた検討状況として教育支援関係事業にかかる主な変更点2つについてご説明する。

英語交流事業について例年夏休みの最後に、区役所の会議室を広く使い、いわゆる英語村的なイベントを実施しており好評をいただいている。これまで小中学生を対象に実施してきたが、クラブ活動などで忙しい中学生の参加が少ないという課題がある。小学校では来年度から英語の教科化が始まることや、元々小学生に好評なイベントであることから、来年度からは小学生を対象を絞り実施していく。午前の第1部は、ワークショップ的な内容で事前申込において人数制限していたが、非常に人気を博したため、参加者数を拡大する。午後の第2部の英語ブース等体験イベントについては従来どおりの内容で実施していく。対象を絞ることにより一層魅力的なイベントになるのではないかと考えている。

もう一つは、区役所で実施している発達障がいサポート事業と、教育委員会で実施している特別支援教育

サポーター事業を一元化し、支援体制の充実を図ろうというものだ。これまで授業内のサポートは教育委員会、登下校の見守りや運動会・校外学習等の授業外のサポートは区役所と役割分担し実施してきたが、一元的に実施する方が効率的で、かつ担い手にとっても社会保障面で安心していただけるという考えのもと、これまでの有償ボランティアにかわり会計年度任用職員という任用形態になる。これまで淀川区の小中学校の校長先生からは、発達障がいサポート事業については充実を図っていただきたいとの要望もあったので、元々の予算枠を超えて予算を確保し実施してきた。一元化に伴い区の予算を教育委員会に移管することになるが、今までどおり充実した体制で実施していただきたいと教育委員会に依頼している。詳細な内容については、まだ教育委員会から示されていないため、後日ご紹介できればと考えている。

スクールカウンセラー事業について、各中学校単位で校区内の小学校と共に学校での児童・生徒の悩み事や保護者の相談、教員の相談に対応していただくスクールカウンセラーを配置している。区内の小中学校からは常々充実を図っていただきたいとの要望をいただいているので、区役所でも努力して予算を確保し、来年度に向けて充実を図っていく予定である。今年度は5週に1回の学校にも、来年度は2週または3週に1回巡回していただけるよう、非常に充実した体制を組むため現在予算要望中である。

ここまでの内容について、ご意見やご質問があればお伺いしたい。

出口委員

すいみん月間について、各学校でも学校協議会を通じ議論されているが、学校での進捗状態を教えていただければ、次年度の学校協議会にもフィードバックできるかと思うので、お願いしたい。

榊原課長

美津島中学校で12月下旬に西川株式会社の方に来ていただいでご講演いただく予定。ヨドネルと漢字名人育成計画の取組は各学校の運営に関する計画に盛り込むよう依頼し、各学校で取組んでいただいている。第3回学校協議会でも取組に関する記述があるので、区役所でとりまとめて情報提供させていただく。

佐々木サミュエル委員

スクールカウンセラー事業について利用率が高まっていると思う。小学校の保護者の声を聴くと、スクールカウンセラーという言葉になじみがないように感じる。私自身がイギリスから日本に来たので、風邪を引いたら病院に行くという感覚でカウンセラーを受けることはごく普通のことだったが、周りのお母さん方の中にはスクールカウンセラーは敷居が高いと感じている方が見受けられる。「行こうと思うけど、どう思う？」と相談されることもあり、「特別なことではないので、ぜひ話をしてもらった方がいいよ。」と伝えている。枚方市ではスクールカウンセラーという言葉は敷居が高いので、「こころの教室」みたいな感じで子どもや保護者が利用しやすいように運営されていたと、昔聞いたことがある。もしそのようなことが可能であれば、ご検討いただければと思う。

榊原課長

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。スクールカウンセラーが学校に行っても、いらっしやることが子どもたちにわかりにくいので、看板などで掲示できないかというご意見もいただいている。「こころの教室」というのはとてもわかりやすいネーミングだと思うので、学校とも相談しながら取り入れられる部分は取り入れるなど、参考にさせていただきたい。

板谷委員

中学校から小学校への「派遣」の意味は何か。

榑原課長

事業のルール上、スクールカウンセラーの籍・拠点が中学校ということで、そこから各学校に回るというしくみを表している。

板谷委員

報償金の合計が6人分ということか。

岡田係長

中学校では6人分の計算、小学校では8人分の計算で合計14人分の人件費がかかる。

山本次長（区長）

元々中学校に1人ずつという基準で校下の小学校へ巡回するという仕組みになっていた。もっと増やしてほしいと要望のあるスクールカウンセラー事業なのに、予算がシーリングで毎年削減されていく中で、こども青少年局から来年は今年と同じ時間数は配置できないとの話があったため、区役所の他課から予算をかき集めて前年並みに配置したのが平成30年度。平成31年度も前年度より充実させたが、十三中学校下からは5週に1回と回数が少ないのでもう少し増やせないかという要望もあり、再度努力して比較的学校の差がないように次年度に向け配置を再検討した。

議題3 分権型教育行政にかかる情報提供

榑原課長

分権型教育行政とは、今まで本庁の教育委員会の中で実施してきた教育行政を、現場により近い場所の行政機関で実施した方が効果的ではないかという考えのもと、区役所の我々が教育委員会の兼務となり、区役所でも教育行政を実施していこうというものだ。区役所予算もあるが、教育委員会予算も区役所で使えるという状況になっている。

（1）学校協議会委員研修について

榑原課長

区役所では学校協議会委員に対する研修を実施しており、10月8日と11日に初めて委員になられた方を対象に実施した研修のアンケート結果を示している。保護者の方が6割位、地域の方に3割位ご出席いただき、内容についてもご理解いただいたようだ。ご意見も様々いただいたが、今後の事業の参考にさせていただく。来年2月には全体的な研修を実施予定で、傍聴も可能なので関心があればぜひお越しいただきたい。

（2）子ども見守り放送について

榑原課長

現在午後4時50分に防災スピーカーを利用して子どもの帰宅を促す放送を流している。小学校の校長会から子どもの安全を守る取組をしてほしいという要望に沿い、区役所が小学校と取組んでいるものだ。大部分の方には良い取組だと評価いただいているが、一方で、スピーカーの音量が大きく、うるさいといった率直なご意見もいただいている。特に春や秋の窓を開けて過ごす季節になると、意見が寄せられる傾向にある。その都度、意見の内容に寄り添った形で放送の時間を短くしたり、音楽の音量を下げたり、試行錯誤しながら現在に至っている。

(3) 大阪市部活動指針～プレイヤーファースト～について

榑原課長

平成 24 年に桜宮高校のバスケットボール部に所属する生徒が非常に悲しい結果となったことを受け、部活動のあり方、プレイヤーである生徒を第一に考えていこうとの趣旨で、大阪市部活動指針～プレイヤーファースト～が策定された。今まではスポーツ庁が出しているガイドラインに沿った形で部活動、中でも運動部についてはこのルールに則って実施されている。一方、文化庁からは文化部の活動ガイドラインが出されており、これを反映する必要があるとのことで、今後改正が予定されている。大会や地域行事などで、主に吹奏楽部や合唱部などが地域で披露することもあると思うが、活動時間についても意識した方がよいのではないかと見直しが図られているので、情報共有させていただく。逆に活動の場がほしいとのことで、地域にお願いして行っているケースもある。地域からも、ぜひ演奏してほしいという場面もあろうかと思う。引率者の負担軽減も考えていく必要があるのではないかという点で見直しが図られるようだ。

(4) 「淀川区冬休み子ども相談」について

榑原課長

子どもたちが夏休み・冬休み等の長期休み明けには、不登校になりやすく、いじめられるとってしまうなど精神的に不安定になりやすい。長期休み明けのそうした子どもたちが心配だというお声もあるので、市長から委嘱を受けている淀川区人権啓発推進員の方々にお願いして 12 月 26 日は区役所、27 日と 1 月 6 日には区民センターで相談会を実施する。区ホームページや「よどマガ!」12 月号、Twitter、学校でチラシを掲示して淀川区オリジナルの取組を行っていく。初めての取組なので手探りの状況だが、できるところからやっていきたい。

(5) アンケートの実施について

榑原課長

例年実施している分権型教育行政についてのアンケートを、今年度も教育委員会からとるように指示されているので、保護者・区民の方々の代表による会議である子ども教育会議の委員の皆さんにアンケートをお願いしたい。第 3 回の会議の時にご協力をよろしくお願いいたします。

(6) 絵本展「ものがたりのちから」について

榑原課長

今回は有名な長谷川義史さんにお越しいただくことになっており、講演会は区民の方限定とさせていただいている。

澤田係長

区内小学校と中学校、保育園や幼稚園には年明けすぐにチラシをお送りする予定だ。地域の掲示板や子ども・子育てプラザなど生涯学習の関連施設には年末ごろから配架させていただくので、お近くの方にご紹介いただけるとありがたい。

榑原課長

分権型教育行政に関してご意見やご質問があれば、お伺いしたい。

佐々木サミュエル委員

「淀川区冬休み子ども相談」について初めての取組とのことだが、私は長年不登校の子どもたちの支援を

させていただいている。今、大阪市には法務局や弁護士会、LINE相談など窓口がとてたくさんあるが、全部に相談して解決せずに絶望し不登校になっている子どもたちもいる。今の教育行政の相談窓口はたて割りになっているので、相談を受けた人に権限がなく、相談した側も気持ちが楽になっていないという状況をこれまで何度も見てきた。相談を実施するのは良いことだと思うが、予算があるのであれば、現状の窓口をどうやって充実させるかも考えてほしい。ニア・イズ・ベターが分権型教育行政のポリシーなのであれば、子どもたちのそばにいる、例えばこの会議に参加している私たちが子どもたちの声を聴ける人になるような研修会を区役所で企画していただいたり、できるだけ子どもたちのそばにいる大人が手を差し伸べられるような企画があれば効果的ではないかと思う。

榊原課長

貴重なご意見だと思う。確かに、一人でも多くの方に相談できる場があり、安心していただけるよう思って取組を考えた。ご経験から、おっしゃるようなこともあろうかと思う。相談いただいた方が失望しないような形で実施していきたい。大阪市全体の動きを注視しながら、今後進めていきたい。

出口委員

「冬休み子ども相談」について児童相談所との連携は考えていないのか。

榊原課長

内容によっては児童相談所につないでいかなければならないケースもあると思う。信頼関係もあるので、相談に来られた方の意向も聴きながらになるが、命にかかわる相談であれば、迅速にそういった機関につながることも考えている。

議題4 自己肯定感を高める取組について

榊原課長

自己肯定感を高める取組として、ほめ写プロジェクトを皆さんにご提案させていただく。淀川区で取組んではどうかと考えており、先日PTAの方々にも提案させていただいた。簡単に申しあげると、スマホで撮影したままになっているお子さんやお孫さんの写真をプリントアウトしてリビングや玄関先などの家族の団欒の場に飾るという取組だ。その結果、クラブ活動の活躍のシーンやご兄弟の何気ない日常を切り取った写真、そうした写真を媒体として親子の会話が進むことが考えられる。例えばクラブ活動を振り返り、自分でも頑張っているという思いを抱いたり、保護者からは頑張ったねという声かけが生まれて、自己肯定感が高まるというものだ。

富士フィルム株式会社が主な企業となってその他企業も実施している。マッキンゼーエリクソン株式会社という広告代理店を中心にその他教育関係企業もたくさん入っており安心できる団体だと思うので、これらの企業と連携して各ご家庭で取組んでいただけるよう区役所から働きかけができたらと考えている。ご質問やご意見があればお伺いしたい。

城野委員

やらないよりやった方が効果はあると思う。マッキンゼーエリクソンは大手広告代理店だと思うが、区役所からいくらかお金を支払うのか。

榊原課長

無料であり、予算は発生しない。区役所で予算を使って実施するものではない。写真の飾りつけや貼り方

に関する講演会などをお願いすれば、講師謝礼金など実費をお支払いすることになる。国立青少年教育振興機構という国の機関でも取組んでいるようだ。始めるのに敷居が低く、お金もかからず、ご家庭でもできることだと思う。国際的に言うと、自己肯定感は日本が最低で、日本の中でも大阪が一番自己肯定感が低いという結果もあり、世界中で自己肯定感が一番低いということなので、子どもたちに自信を持ってほしいと思い、取組んでいければと考えている。

山本次長（区長）

各学校でもアンケートを取って、全国と大阪市平均、各学校で比較しており、学校協議会では校長先生から自己肯定感が低いという説明がよくされている。自己肯定感を高めるのに役立つことはないかと考えていた時に、こういった取組があると知り、教育支援担当に話を聞きに行ってもらったので、淀川区でも一度やってみてはどうかという趣旨で、ご紹介させていただいた。

板谷委員

成長の証として孫の写真を飾って見せれば、確かに孫は喜んでいるので、効果は非常にあると思う。小学校でも活動状況を廊下に貼っているのを見かけるが、その中に自分の写真があれば、プラスの効果はあると思う。小学校や家庭に広報していくということか。

榊原課長

これまでの取組は区役所と学校でやり取りすることが多かったので、家庭と区役所とのかかわりが薄いと感じている。もちろん学校でやっていただけるのも大歓迎だが、この取組は家庭と区役所という関係性で家庭とつながってやっていきたい。

板谷委員

具体的なことがあまりわからない。

榊原課長

マッキンゼーエリクソンの方や富士フィルムの方あるいは実際に取組んでおられる保護者の方もいらっしゃるので、取組内容やその結果子どもの姿が変わったという具体的なお話を聞くことができる。

板谷委員

要するに、区役所が保護者を対象に講演会をやっていくということか。

榊原課長

一度淀川区で講演会をやらせていただきたい。

議題5 その他

（公民の教科書について）

榊原課長

城野委員からご用意いただいている議題についてお話をいただきたい。

城野委員

教育関係で私が問題だと感じているテーマについてお話してよいかと事前に尋ねたら、ぜひお話いただき

たいとのことだったので、少しお時間をいただきお話をさせていただく。

先日、名古屋で開催された「表現の不自由展」が話題になったが、運よくその展示を見ることができた。見たところ、なぜそんなに問題になるのかというのが率直な感想だ。名古屋市長が日本人の心を踏みにじるとか公共の福祉に反すると言っていたので、中学生の子どもが使っている公民の教科書を見てみた。大阪市で採用されている育鵬社版の教科書には「常に公共の福祉のためにこれを利用する責任があると定めています」としか書いておらず、公共の福祉が何なのか分からない。それに対し、別の出版社の教科書では「公共の福祉とは、ある人の自由や権利の行使が他の人の人権を侵害しないようにするための共生のルールなのである」と明確に書いてある。子どもが使っている教科書の他の項目も見てみたが、記述に違和感があるものが多い。一番心配しているのは、ゆがんだ見方から作られた教科書で学び成長した子どもたちが世界へ出た時、特に外国の方と会話した時に、この認識が大幅に世界基準とずれているということ。前近代的とも言える。教科書を採択するのがこの場ではないことは承知しているが、こうした考えを持っている保護者もいるということを知っていただければと思い、発言させていただいた。

榊原課長

おっしゃったとおり、教科書採択についてはこの会議でどうにかできるものではない。ご意見をお持ちということでご発言いただいた。他にもご質問などがあればお伺いしたい。

佐々木サミュエル 委員

「日本の子どもは先進諸国と比較して自己肯定感が低い」とされているが、自己肯定感是非常に大事だと思う。私は更生保護女性会に所属しているが、罪を犯してしまう青少年、もちろん成人も含め、共通するのは自己肯定感が低いことだと言われている。自己肯定感が高いことはとても大切なことだが、どうして自己肯定感がこんなに低いのかということを経験する場が必要。どうして自己肯定感が低いのか継続的にいろいろな立場の大人が議論できる場を設けていただけたらと思う。

山本次長（区長）

この会議の場もそうだが、学校協議会もそういう場だ。私が出席した学校協議会では、かなりの確率で自己肯定感が低いというご意見や、なぜ低いのかというお話が出ている。いろいろな場で議論していただき、ご意見を聴かせていただくのは大事だと思っている。

佐々木サミュエル 委員

学校協議会を傍聴させていただいているが、子どもたちが点数で評価されすぎていると思う。フィンランドやヨーロッパでは、テストの結果で子どもを評価しない方針に切り替えている。自身の出身地が全国统一テストをどちらかというと実施しない所で、子ども時代伸び伸びと過ごした。今、大阪が最下位だと大人が騒ぐ声が子どもたちの耳に絶対入っていると思う。それが子どもの成長に良い影響を与えるはずがないとも思う。大阪の「共に学び共に育ち共に生きる教育」はとても良いことだと思う。地方に行くと、知的障がいのある子どもには統一テストには来ないでくださいと学校の先生が堂々と言うらしい。大阪市では知的障がいのある子どもも平等にテストを受けており、先生方が現場でサポートされているのだから、もっとアピールしてもよいと思う。人権のまちだからこそテストの結果が低いのだということを、大人はきちんと子どもに伝えてほしい。

山本次長（区長）

インクルーシブは大阪市の教育の中で誇るべき特質だと思う。おっしゃることに同感である。

榊原課長

どのような形が望ましいのかということについて、また検討させていただく。

城野委員

自己肯定感は大事だと思っている。中学校の入学式に出席した時、私語が一切なく異様な雰囲気だった。運動会では延々と行進の練習をさせられて嫌だと、子どもが言っていた。私は埼玉出身だが、大阪の教育は体質がなにか軍隊的で、生徒の自由な行動を許さない雰囲気を感じる。子どもには自分の幸福を徹底的に追求してよい、すべきだということを教えるべきだと思うが、そういうことが全くされていない。もしされていけば、自己肯定感は高まると思う。

榊原課長

他にご意見があればお伺いしたい。

岡田委員

部活動の指針は先生向けの資料なのか、それとも保護者に配付される資料なのか。

榊原課長

保護者に見ていただくものでもあり、指導者の方にとっての大阪市のルール・ブックのようなものだ。

岡田委員

働き方改革で先生が休まなければならないという観点からだと思うが、「体罰・暴力行為、ハラスメント、いじめの排除」を書くだけでなく、徹底していただきたい。ある中学校の部活動で1学期からいじめがあり、退部者が出たと聞いている。保護者が学校教育に関わってどこまで口出しできるのかということもあるが、先生方が頑張っていることも承知のうえで、現実にかような問題が起こっていることを教育委員会に意見として伝えていただけるとありがたい。

木川南小 久保校長

様々な問題が起こっていることは承知しており、そういったことが起こらないようにしたいと思う。そのためには子どもたち一人ひとりの思いを受け止めることが大事だが、現実にはそうになっていない。行き過ぎた成果主義や競争主義の中に子どもたちがさらされており、文科省が「社会を生き抜く力」と表現している点からしても、協力することや連帯することを学校教育の中で教えるにくくなっている。学力の低下はきっとゆとり教育のせいではないと感じている。指導要領にしても、子どもたちの声を聴いて変わったことはなく、現場の教師の声が反映されたわけでもない。佐々木ミユヅル委員がおっしゃったように、こういう小さな場からでもみんなが根本的なお話をしていかなければ何も変わっていかないと思う。

十三中 屋島校長

学習指導要領に示されている内容に従って教員が授業を行っているが、今大きな分岐点になっていると本校においても感じている。今までの詰め込み式の講義形式の授業は、目の前の教員の言葉を聞いて黒板の字を写すだけの一方的で受動的な授業だったのに対し、「主体的・対話的で深い学び」というキーワードのもと、いかに主体的になれるかという視点で、本校は「学びの共同体」に取り組んでいる。聴き合い、コの字型から始まってグループ、4人一組、男女市松模様の座席配置で、あるテーマを深く落とし込み、物事を発展

的に考えようと今取り組んでいる。目の前のものを覚えるのではなく、より深くキーワードを落とし込み、子どもたちが主体的に取り組んでいる姿は、低いといわれる自己肯定感を克服できる唯一の方法だと思う。先日、静岡に「学びの共同体」の先進校へ行く機会があったが、その学校の全国学力・学習状況調査の結果は全国平均よりはるかに上回っており、自己肯定感もかなり高かった。ベースになっているのは家庭の教育力もあると思うが、学校の授業形態も自己肯定感を高めてくれる要因になっていると思う。その学校では廊下、教室、様々な場所に子どもたちの笑顔あふれる写真がたくさん貼られており、子どもたちが登校時、写真を見ながら一日のよいスタートを切っている。学校も自己肯定感を高めるよい機会を作っていけると感じたので、ぜひ自校に持ち帰り取り組んでみたいと思った。家だけではなく、学校でも十分取り組むことができる内容だと思う。

榊原課長

他にご意見があればお伺いしたい。

安田委員

プレイヤーファーストについて、学校から去年配っていただいた。中学校では保護者も入れたクラブの話し合いをしてほしいと要望する声があがり、去年初めて実現した。一生懸命話し合ったが、現実には成果主義「1位を取ってこい」というような雰囲気がある。テスト前1週間はクラブ活動をしてはだめだと言っているのに、活動しているのが現状。お正月3日間は休んだらいいと思うのに、3日も休んだらできなくなるという顧問の先生もいる。そういう状況の中でどうやってうまくやっていくのかなと感じている。

校則について先日、役員会で話が出た。生徒手帳にはあいまいな校則しか書いていないが、今年になって校則に関するプリントが2~3枚も配付された。保護者が聞いてもわからないような細かい校則がいっぱい書かれている。段々しんどくなっていると感じる。

壽榮松委員

英語交流事業はどういう案内を出されているのか。学校経由で子どもたちが持ち帰るプリントの中に入っているのか。

澤田係長

児童・生徒の全員にいきわたるように約1か月半前にはお渡ししている。

壽榮松委員

発達障がいサポート事業が特別支援教育サポーターと一元化されるとのことだが、現場の実務でどのように変わるのか。発達障がいと病院で認定された子には発達障がいサポーターが付くことはわかっている。学校側が認識しない子にはサポーター要請をしないという現場がある。学校協議会などの場でサポーターが絶対に必要だと訴え、校長や教頭、学年主任の先生が頑張ってくれただけにもかかわらず、解決しなかった。現場のサポートは区でも遠いと思っていたのに、教育委員会となるともっと遠く感じる。サポートシステムをきちんと構築してもらえたら一元化もよいが、なかなか目が届かないのであれば、一元化はどういう意味をもつのか。予算の問題であれば、逆に予算を割いてでも現場の近くにサポートシステムを設けていただく方がありがたい。一元化されると、現場はどんな風になるのか。

榊原課長

実際の制度設計が教育委員会でもまだできていないので、どうするか、どんな形であるのかについて各区役所

からも早く決めてほしいと声があがっている。私共も同じような心配をしているので、各学校の様子も聞いて、きちんとできているかモニターをしていく必要があると考えている。淀川区ではかなり要望があったので、予算を多めに確保している現状があるが、今後その予算が他区に流れていかないか心配している。必要なサポーターの人数が確保されているのか、学校のニーズに合って寄り添っているのか、きちんと見ていきたい。他で聞いた話では、最初から特別支援学級にエントリーしていただければ、教員の加配もつくとのことだ。しかし、途中で発達障がいであることがわかった場合は、制度的に教員の後付けが難しいと聞く。問題が起こるのはそのケースだと思う。教育委員会の運営方針、いわゆる学校の運営に関する計画のようなものがあり、それに対して教育委員会から区に意見を出すようになっているので、区役所としてもそういった意見を出していきたい。

壽榮松委員

例えば、保護者から第三者機関のような窓口を設けていただいて、その別機関で調査してもらうことはできないのか。

木川南小 久保校長

そもそも発達障がいがあるかないかでサポートがつくつかないかという制度自体に問題がある。みんな苦手や不得意があり、それぞれに生きづらさがある。学級が荒れ崩壊することもあるが、誰か1人の子どものせいだということは絶対ないと思う。学校自体、教員の人数が不足している。知的障がいや身体障がいの種別があるが、現状8人につき教員が1人つく仕組みになっている。発達障がいがあるなしではなく、それぞれに生きづらさがあって、それに対するサポートがあればよいと思う。一元化され、有償ボランティアではなく会計年度任用職員として身分を保証しようという点は賛成だが、予算規模をもっと大きくしてもらえないと、その子にとってのしんどさに寄り添う教育はできない。発達障がいの子どもだけに特別にサポートしないといけないという考え方をしてはいけないと思う。

壽榮松委員

アメリカで発達障がいについて学ばれた先生を人権講演会に招いて話を聞いた。発達障がいは病気ではないこと、症例なども含め入り口の部分についてお話をいろいろ聞かせていただくと、周りの保護者が自分の子も発達障がいではないかと思いだした。先ほどの事例だが、その子が特別どうこうではなく騒いでいることについては何かのサポートが必要ではないかと訴えてきたつもりだ。しかし、学校が聞き入れてくれなかった。そういうクラスの学校の先生にも逆にサポートが必要ではないかと思うので、今後考えていただきたい。

木川南小 久保校長

慢性的に学校には人が不足している。先生たちも心がすり減ると余裕がなくなって対応していけなくなり、見逃しからどんどん悪循環に陥る。先生へのサポートもあれば、私たちもありがたい。先生に余裕がなくなると、結局は子どもたちが嫌な思いやしんどい思いをすることになる。

壽榮松委員

そういう状況を起こしている子ども自身も嫌な思いをする。誰も得をしない。こんな困った状況があるよと事情を説明しておいて、学級代表の保護者に後ろに立ってもらうなど、ボランティアでもよいし、PTAを通してでもよいので、なんらか考えていく方がよい。一本化してどんどん縮小し、サポート体制がこうでないとだめだと決められて先行していくのであれば、少し怖い。

スクールカウンセラーについて、美津島中学校2名に対して加島小学校と三津屋小学校の2週に1回いるということは、1か月半に1回学校に来られるということか。

岡田係長

2週間に1回、小学校に行ってもらおう。小学校により多く行ってもらうために中学校の配置人数を増やすというイメージ。

壽榮松委員

緊急的なことがあれば、中学校に連絡をすればよいのか。

岡田係長

中学校でも受けてもらえるし、緊急的に訪問の順番を入れ替えることもできる。

壽榮松委員

自己肯定感が話題になっていたが、大阪はそんなに自己肯定感が低いと思う。大阪には吉本新喜劇的に自分を卑下して笑いをとる文化がある。立場上、淀川区の子どもたちとかかわる場面も多くあるが、そんなに自己肯定感が低いようには思えない。大人が思っている以上に楽しくやっているような気がする。

榊原課長

可能であれば、具体的に数字で出せばよいと思う。区内のある学校でもアスリートを呼んでお話を聞き、自己肯定感を高めると、テストの点数も上がり、学校も安定するという。なんらかの相関関係があるようなので、数値化できればよい。

壽榮松委員

相関関係はあるかもしれないが、大阪自体が自虐的な文化で成り立っているのです、笑いを取ればそれでいいみたいな部分もある。

今、道徳の教科が評価されていることが怖い。心の部分を学校の先生がどうやって評価しているのか。教える側の考えで評価されることの怖さは今後ないのか。評価基準を設けられるもの、例えば算数や数学などの評価基準ははっきりとわかりやすいが、道徳の評価は非常に難しいと思う。教える側も教えられる側も道徳に対してどう向き合うのか、評価されて点数化されていくことが怖い。道徳の点数を取るためにこういう人になっておこうかという人間が出てくるのではないかと危惧され、怖い。

榊原課長

課題としていただいたと思う。すべてを解決するのは難しいが、一方でヨドネルの取組により睡眠習慣が改善したことは現実に数値で表れている。一步ずつでも半歩ずつでも進めていきたいと思うので、みなさまのご協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。